

発 言 通 告 書 要 旨 (1 枚目／全 3 枚)

氏 名 福永 哲也

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
1	(1)		市長自身が考える「加賀市の将来像」と「加賀市への思い」について 加賀市の現在と将来像について 人口減少や少子高齢化といった人口構造の変化、公共施設や生活インフラの老朽化、さらには近年頻発する自然災害など、本市を取り巻く環境は大きく変化している。一方で、デジタル技術の進展や新たな産業の創出、北陸新幹線加賀温泉駅の開業、加賀温泉駅周辺の開発予定など、今後の加賀市の発展につながる新たな可能性も生まれている。 こうした中、これからの加賀市を持続可能なまちとして発展させ、次の世代へ引き継いでいくためには、個々の政策や事業を進めるだけではなく、「将来、加賀市をどのようなまちにしていけるのか」という明確な将来像を、市民と行政が共有することが重要である。 市長就任から、まもなく 1 年が経とうとしている今、市政運営に取り組む中で、現在の加賀市をどのようなまちであると捉えているのか。 また、本市が持つ可能性や強みをどのように認識し、10 年後、20 年後の加賀市をどのようなまちにしていきたいと考えているのか。市長が唱える「もっと住民が幸せな加賀市」実現のため、他者ではない市長自身が思い描く加賀市の将来像を市民にどのように共有し、将来の加賀市を市民とともにつくっていこうと考えているのか、市長の考えを問う。	
	(2)		市長自身の「加賀市への思い」について 市長が思い描く将来の加賀市を実現するためには、限られた財源や人材を有効に活用し、何を重点課題として捉え、どの分野に資源を重点的に投入していくのかという、市長自身の判断と決意が重要である。今後の市政運営において、これらをどのように進めていこうと考えているのか。 また、市長就任以来、市政を担う中で、様々な課題や市民の声に向き合ってきたと思うが、その中で、市長自身の中で芽生えてきた加賀市に対する新たな思いとはどのようなものか。	

発 言 通 告 書 要 旨 (2枚目/全3枚)

氏 名 福永 哲也

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
2			加賀市の国指定史跡の管理について 加賀市には、国指定史跡として、法皇山横穴古墳、狐山古墳がある。石川県での国指定史跡は、この加賀市の法皇山横穴古墳が初めてであり、狐山古墳が2番目である。加賀市には、このような他都市にも誇れる貴重な史跡と文化財があるが、このうち、狐山古墳の整備と管理について、次の2点を問う。 ①法皇山横穴古墳では、今年度、トイレの整備が行われているが、狐山古墳にはトイレが整備されていない。狐山古墳でのトイレの整備計画を示せ。 ②狐山古墳の発見後、露出した箱式石棺をさや堂で覆い、その周辺に築いた擁壁が、現在傾斜しているほか、狐山古墳敷地内にある桜の木の枝が、道路の上に大きくせり出し、強風や積雪時の倒木のおそれや、交通に支障が出る可能性があるため、何らかの措置が必要であると考えるが、所見を問う。	
3	(1)		感震ブレーカーの設置促進と補助について 感震ブレーカーの設置促進について 感震ブレーカーの設置は、自宅の不在時や地震などの災害の際にブレーカーを落として避難する余裕がない場合に電気火災を防止する有効な手段であり、国をはじめ全国の各自治体では、設置の推奨と普及に取り組んでいる。阪神・淡路大震災、東日本大震災では、火災発生原因の約半数以上が、電気の復旧後の火災、いわゆる通電火災であった。しかしながら、現状はこの感震ブレーカーへの認知不足から、設置があまり進んでいないと聞き及んでいる。現在、一般に販売されている感震ブレーカーの種類や機能概要について、また、感震ブレーカーの普及状況と今後の市民へのさらなる普及啓発の手法について問う。	
	(2)		感震ブレーカーの設置補助について 現在、石川県には購入・設置補助制度があり、県内の一部の自治体では、県とは別に独自の購入・設置補助制度を設けている。本市としても、市民の財産・生命を守り、防災の質を高めるという観点から、今後、市独自に感震ブレーカーの購入・設置の補助制度を設けるべきと考えるが、所見を問う。	

発 言 通 告 書 要 旨 (3枚目/全3枚)

氏 名 福永 哲也

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
4			自治体病院協議支援事業について 自治体病院協議支援事業については、今後、専門的知見を有する外部事業者へ委託し、検討に必要なデータの収集や分析等を行うことは承知しているが、事業の概要説明では、加賀市医療センターと小松市民病院の2つの病院を、自治体病院としてそれぞれ存続させる前提で、互いの医療機関の強みを生かし、南加賀医療圏全体として最適な医療機能を分担・連携していくため、協議会で具体的な方策を検討するとされている。医療機能の分担・連携を進めることにより、赤字経営にならない健全な病院事業が見込めるのか。具体的な検討に入る前の現段階において、南加賀医療圏における本市の基幹病院である加賀市医療センターの位置づけや役割をどのように考えており、今後、能美市も含めた協議を想定しているのか、所見を問う。	
5			加賀市市民栄誉賞の創設事業について 社会に明るい希望を与え、本市の名を高めた方々の栄誉を称えるため、「加賀市市民栄誉賞」を創設するための補正予算であるが、次の2点について問う。 ①選考審査会委員報酬費 54,000 円とあるが、選考委員は、どのような方で、何人で構成されるのか。また、表彰関係費 426,000 円の内訳について示せ。 ②スポーツ、文化、芸術などの各分野について、今年度中に選考審査会を開き、授与式を挙行する計画はあるのか。	
6			加賀市政の広報と情報発信力について 加賀市における市政一般や広報等の情報発信が減少していると感じている。情報発信数等の調査を依頼した結果、今年度4月から8月までの5か月間で、本市のサイト(ホームページ)やInstagramで、一部、閲覧数や再生回数が増加したものもあったが、昨年の同期間では、プレスリリースは208件であったものが、今年度の同期間では171件と37件減少し、増減率は17.8%の減少であった。 また、SNS等の投稿数も、Xやフェイスブックの増減率は、72%から76.2%の大幅な減少であった。これは今年3月まであったプロモーション室が新年度からの機構改革により廃止されたことによる影響があるのではと考えられるが、加賀市の情報発信力が減衰しているという実態と影響をどのように捉え、また、今後の対策や改善策について、どのように考えているのか、所見を問う。	